

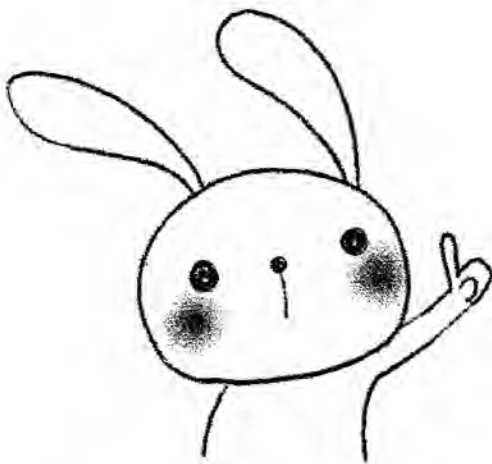
桑員

第58号

まちのかわら版

三重県 新しい公共支援事業

平成24年1月15日発行



まちやまちでの暮らしを支える
人のいろいろな活動があります。
支えてもらっていることに感謝し
支えてくれている人を尊敬し
支えている人たちに期待しています。
「自分の意志でとりくみ
ひとりひとりを大切に
多くの人たちといっしょに解決していく。」
そんなすてきな人たちの
ひとりになりたいと思います。

きらきら☆らじお（「みんな元気!!こちら市民活動応援局です」）放送中

インターネットで 毎週木曜日10:00~11:30 ラジオ生放送です。
毎回2人のゲストに市民活動の魅力について語っていただきます。

また第1回は、郷土史家西羽晃氏の歴史寄稿文の朗読を行います。

さらに、新しく志治優美さんの「ゆるゆる子育てコラム」の朗読も始まりました。以前「しっぽ屋」の執筆をされていた方です。それぞれどんな方?と思われた方は、過去のラジオ放送をお聞かせください。

放送を聞くには? / 投稿するには?



ITラジオ みんな元気!!
こちら市民活動応援局です

みえきた市民活動センターホームページ

基金づくり・まちのかわらばんITラジオ

** 放送会場へ遊びに来てね。(会場は、内面をご覧ください。)
イベントの告知もできますよ。



♪ 2月2日 いなべ市市民活動センター
(いなべ市員弁町笠田新田73番地1)

★ 伊藤通敏さん

桑名歴史案内人の会に所属。日頃は交代で六華苑に常駐して来訪された観光客に苑内を案内。そのほか市の物産観光案内所に申し込みのあった団体などに九華公園、東海道の町並みなどを案内し、桑名の良さをPRしている。

★ 大塚由良美さん

現在桑名市博物館に勤務。「『NPO活動』などと正面切って言えるほどのことはしておりませんが、市民活動の皆様方と協働で色々な事を行ってきました。その蓄積は私の宝とと思っています。」とのこと。

* 郷土史家 西羽晃氏

歴史寄稿文朗読 (朗読ボランティア)
内容の要約は、下記

♪ 2月9日 はあび工房Together「カフェ&ギャラリー」
(桑名市 陽だまりの丘7丁目 1106)

★ 水谷貴美子さん

地域に暮らす障害者。(69歳)40数年障害者運動に関わる。「桑名マップの会」事務局。趣味:短歌、読書、映画鑑賞。

★ 新海洋子さん

環境省中部環境パートナーシップオフィスチーフプロデューサー。幼少よりは平和・人権運動に関わり、広島・長崎・沖縄など訪れ、「命を奪う人間」に不信感をもち、平和問題、マイノリティに関する問題にのめりこみ、多様な現場でNGO活動に出会う。大学で社会福祉を専攻、名古屋YWCA、環境NPOなどを経て現職。

♪ 2月16日 いなべ市市民活動センター
(いなべ市員弁町笠田新田73番地1)

★ 川瀬みち代さん

桑名市ボランティア連合協議会会長。桑名市社会福祉協議会理事。桑名防災支援ネット副代表。東日本大震災の現地へ、みえポラパック第1便のリーダーとして4/28~5/2まで岩手県山田町に赴く。

★ 池田秀夫さん

いなべ市在宅介護者家族の会「だいふくの会」の会長を5年間務め、63名の会員と共に幅広い福祉活動を行い、いなべ市に貢献しています。

♪ 2月23日 寺子屋プロジェクト
(員弁郡東員町穴太 1958-1)

★ 松岡典子さん

助産師の経験から母子をサポートする必要性を感じ、1999年NPO法人MCサポートセンターみくみえを設立。第63回「保健文化賞」受賞。同代表。子育て講座や思春期の健康教育の講師としても活動中。

★ 鈴木秋代さん

「大安町おはなしの会くまのこ」代表。子どもたちとのふれあいを大切にして、本を読む楽しさ、お話をする楽しさを伝えようと26年間活動を続けています。

* 志治優美さん

「ゆるゆる子育てコラム」の朗読

郷土史家 西羽晃氏の歴史寄稿

幕末・維新の桑名藩シリーズ16 硝石製造と鉄砲場

幕末の桑名藩では硝石を製造していました。硝石は火薬の原料になる危険物なので、製造場は郊外の西方村に設けられました。走井山に近いところだったと思われます。

桑名藩の鉄砲射撃場は柳原にありましたが、西方の配水場の下の竹藪の中に昭和27年5月に建てられた「旧桑名藩鉄砲場の跡」の石碑が現在あります。柳原と西方と二カ所にあったのでしょうか。

3か月を過ぎて

～桑名員弁地域「新しい公共を支える資源循環の基盤づくり」報告～

(特)みえきた市民活動センター 理事長 服部則仁

昨年の9月、まだまだあつい日がつづくなか、みえきた市民活動センター(桑名)と、いなべこども活動支援センター(いなべ)、生ゴミリサイクル思考の会(東員)の4人が、津にあるみえ市民活動ボランティアセンターにいました。三重県が行う「新しい公共を支える資源循環の基盤づくり」事業の提案・プレゼンテーションに参加するためでした。

県下を県民センター単位で9地域に分けて、それぞれの地域で「新しい公共支援事業」を行ってほしいという三重県生活・文化部NPOグループの公募要領にそって、桑名員弁地域での「市民活動応援基金づくり」を提案しようと準備をすすめてきました。この地域からの提案は私たちだけでしたので、「この企画は選定基準にとどかない」と言われたらどうしよう、どうやって地域でがんばって市民活動をしている人たちにおわびしよう、申し訳なさすぎる…と、うしろ向きなことばかり浮かんできました。せっかくの「市民活動を応援するための予算」です。なにがなんでも選んでもらって、桑名員弁地域で市民活動をしている人たちのために活かしたい。あついののに冷や汗が一つとおちてきました…。選ばれたのがわかったとき、「とうぜんです」という顔をしながら、全身から力がぬけていきました。



その翌日から、提案を具体化するために走ることに。

10月1日から翌年3月末までの契約が三重県とでき、平成24年度の残り一年分についてはその実施状況のみという形です。そう、この半年間が成否を決めることとなります。6か月で250万円という金額を得て、毎月一回のまちのかわらばんの発行、毎週一回のITラジオ放送、市民活動を応援する基金づくりの会のたちあげ、基金づくりの応援団の募集うけいれ、これらの活動と積極的な情報公開をつうじて、「NPO・市民活動のすばらしさ」を多くの人、企業、行政にも知ってもらい、理解していただくこと。最終的には「市民活動を応援する小さな小さな市民活動応援基金」をみんなでつくって運営していくこと。これが私たちの約束になりました、いえ、約束にしてみました。



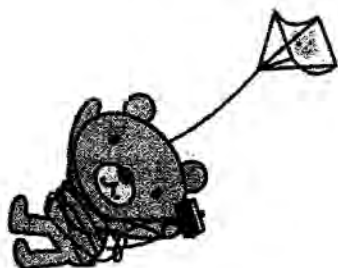
ふうーっ…。いちばんきつかった時期は、11月の後半の二週間ほど。気持ちがささくれていました。いそがしすぎたからです。おつかれ度もピークでした。すいません、すいません。はい、反省しています。たくさんの方の仲間にあすけられました。ありがとうございます。

桑名員弁地域でのもうひとつの「新しい公共支援事業」、NPO法人活動実態調査と地域円卓会議。これは三重県内各地の市民活動支援のNPOが集まっている「みえNPOネットワークセンター」さんからのもので、この準備と実施もかさなっていました。

たくさんの方の仲間に来てもらって、3団体の協働事業がスタートしました。まちのかわらばんは、伊藤編集長を中心に、昨年内に3回発行できました。ITラジオ放送のゲストの予告、基金づくりの会のうごき、地域円卓会議の案内などの記事を中心に編集してもらいました。発行部数は3000部、この地域の公的機関への掲示・据置依頼はだいたい170か所ほど、市民活動団体、周辺の市民活動支援関連団体やこの地域の市民活動に関心のある人たちへの郵送は130か所ほどになり、少しずつふえています。10部ほどを入れて送らせていただき、お近くの方々へのご配布をお願いしています。ありがとうございます。これからもご参加・ご協力をどうかよろしくお願いいたします。

(内面より続く)

ITらじお放送は、「みんな元気!!こちら市民活動応援局です」という名前で、近藤チーフディレクターのもと、11月17日から昨年内に6回の放送ができました。インターネットのユーストリームというサイトを使い、毎回さまざまなトラブルを乗り越えて、毎週木曜日の午前10時から1時間半ほどの放送になりました。一回につき2名のゲストの方に、市民活動をつうじて生き方やその魅力を伝えていただき、郷土の歴史の朗読や音曲の披露、地域の市民活動の話題、全国のうごきや三重県のNPO施策の紹介など、さまざまに生放送でお伝えしています。愛称は「きらきら☆らじお」です。お支えいただいている多くのみなさま、ほんとうにありがとうございます。



基金づくりの会は、毎月一回、いままで3回の会議を重ね、まちのファンクラブの小笠原さんに代表になっていただき、「小さな市民活動を応援する市民活動応援 きらきら基金」が立ちあがりました。4月には、基金のアピールもかねて、ほんとうに小さな額ですけれど「公開参加型助成事業」をすることになりました。いまは、「進化する基金」をめざして、基金の基本的な考え方、性格などの議論を重ねています。応援団のみなさま、本当にありがとうございます。もっともっとたくさんの方々にご参加いただき、この地域のインフラのひとつとしてお支えいただけるような基金になりたいと思います。

これらの取り組みの情報などは、日本財団の公益コミュニティサイト canpan ブログを活用し、桑名員弁地域の「新しい公共支援事業」関連の情報もふくめて、できるかぎり更新しています。昨年内に2324回のアクセスがありました。感謝です。ありがとうございます。

少しでも多くの人たちにこの取り組みを知ってもらいたいと思っています。この地域の市民活動を少しでも多くのみなさんに応援し支えていただきたく、その手段のひとつとしてこの事業に取り組んでいます。この取り組みをお近くの方々にお伝えいただき、私たちのまちの市民活動を応援していただければとてもありがたく思います。ありがとうございました。



協力: いなべこども活動支援センター
(特)生ごみリサイクル思考の会
後援: 桑名市・いなべ市・東員町・木曾岬町

発行元 (特)みえきた市民活動センター
発行責任者 伊藤
〒511-0088 桑名市南魚町 86 めがね工房ごうじ内
TEL 0594-27-2700 FAX 0594-27-2733
E-mail miekita@mie-kita.gr.jp
URL <http://www.mie-kita.gr.jp/>